

令和5年度

事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

目 次

1	はじめに	1
2	郵政博物館の運営事業	1
	(1) 郵政博物館の展示活動等	1
	(2) 資料に関する情報提供、教育普及活動等	3
	(3) 近隣文化施設との連携	3
3	前島密賞の贈呈事業	3
4	通信文化の普及・発展事業	4
	(1) 会報「通信文化」の発行	4
	(2) 文化講演会等の開催等	5
	(3) 青少年ペンフレンドクラブ(PFC)への活動支援	6
	(4) 社会貢献活動の実施	6
5	土地・建物賃貸事業	7
6	会員に対する諸施策	7
	(1) 叙勲祝賀会の開催	7
	(2) 新年賀詞交歓会の開催	7
	(3) 記念品等の贈呈	7
	(4) 団体傷害保険等の取扱い	7
7	会員増加対策	8
8	役員会議等開催状況	8
	(1) 理事会	8
	(2) 評議員会	9
9	業務等の見直し	10
	「事業報告の附属明細書」はない旨の記載	10

1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人通信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

当協会は郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

収蔵施設については千葉県市川市 行徳郵便局内に「郵政博物館資料センター」を設置している。

2 郵政博物館の運営事業

郵政博物館は、郵政・通信文化の普及・発展に向け次世代の利用者との幅広い交流を図り、歴史的資料・知識を後世に伝えることを目的として、東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンして10年目を迎えた。

日本郵政(株)からの受託及び(一財)ゆうちょ財団、(一財)簡易保険加入者協会からの寄附により、「展示」、「収集・保存、調査研究」、「文化・教育普及、生涯学習支援」という博物館における3つの活動を行い、不特定多数の方にとって文化教養を磨く場、教育普及の場としての活動を行っている。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が感染症法の「5類」に移行されたことを受け、ワークショップ等集客イベントを積極的に開催した。

(1) 郵政博物館の展示活動等

ア 展示活動

押上展示場の常設展示室では、「心ヲツナグ 世界ヲツナグ」をコンセプトテーマとして、体験型のデジタル機器や映像手法などを使って郵政文化を楽しく体感できる展示としている。令和5年度は、「震災からの復旧と郵政」及び「郵便シネマ館」を開催した。

同展示場の企画展示室では、郵政・通信文化の歴史を伝承するとともに文化・学術・教育の発展への寄与を目的とした企画展を3回、切手コレクションを競う国内審査切手展を年度末から翌年度初めにかけて1回開催した。

令和5年度の押上展示場への入館者は41,475名(対当初計画86%)、開館日数は320日で、一日平均130名となった。

なお、前島記念館は8,449人、坂野記念館は4,718人、沖縄郵政資料センターは1,787人の入館者があり、郵政博物館全体で56,429人となった。

(ア) 企画展示室での開催状況

No	特別展名	期 間	開催 日数	入館者数(人)
企画展				
1	夏休みイベント ぽすくまと夏休み in 郵政博物館	7月15日 ～9月3日	51	7,004
2	郵政博物館の重要文化財展 及び辰年年賀状展	9月16日～1月8日 ①重要文化財： 9月16日～12月3日 ②年賀状： 12月7日～1月8日	94 ① 68 ② 26	11,317 ① 8,207 ② 3,110
3	猫のダヤン 40th タシルの街へようこそ！	1月13日 ～3月24日	62	13,081
国内審査切手展				
1	スタンプックス2024(注)	3月30日～4月1日	3	610

注：開催日数及び入館者数は、翌年度（4月1日）分を含む。

(イ) 多目的スペース等での主なイベント開催状況

No	主催者	イベント名	期 間
1	郵政博物館	GW ワークショップ「こいのぼりワークショップ」	4月15日～5月7日
2	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「第6回南方占領地のフィラテリー展」	6月10日～6月11日
3	郵政博物館	新収蔵資料展	6月17日～7月2日
4	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「東京ワンフレームチャンピオンシップ」	7月15日～7月17日
5	郵政博物館	郵便局のゆるキャラ展	8月19日～9月3日
6	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「第10回ヨーロッパ切手展」	9月16日～9月18日
7	郵政博物館	ぽすくまの切手発行記念イベント in 郵政博物館	9月23日
8	もふあつめ展実行委員会	もふあつめ 2023年9月	9月30日～10月15日
9	受信環境クリーン中央協議会	第56回「令和5年度受信環境クリーン図案コンクール」入賞作品展	10月20日～10月29日
10	(一財) ゆうちょ財団	NGO 海外援助活動助成に係る民間海外援助団体の活動 パネル展示	11月2日～11月19日
11	郵政博物館	チャックま展	11月23日～11月26日

12	郵政博物館	猫のダヤン誕生 40 周年プレ企画 お菓子な BABY	12 月 2 日～1 月 12 日
----	-------	--------------------------------	-------------------

押上展示場以外では、前島記念館(新潟県上越市)、坂野記念館(岡山県岡山市)及び沖縄郵政資料センター(沖縄県那覇市)において、地域に縁の深い資料の展示活動を行っている。

イ 資料の収集・保存、調査研究活動

博物館活動の基盤で重要な活動となる資料の収集・保存活動は、収蔵資料のデジタル化の推進、ネット上等での公開など、昨今のネット情報社会に対応した取組みを継続しており、本年度は60件の収集を行った。そのほか未整理資料を対象とした整理業務を行い、約14,000件のデータを実施した。

また、調査研究については、研究者向けの学問的水準を維持する一方で、広く社会に研究成果を公開することを目指し、通信文化に関する研究活動を積極的に推進した。発足して15年目を迎えた郵政歴史文化研究会では、郵政博物館が収蔵する美術資料の分野における研究の充実を目的として第6分科会の活動を開始した。

- (ア) 郵政歴史文化研究会の開催(第1～第6分科会)
- (イ) 研究紀要の発行(第15号:令和6年3月発行)
- (ウ) その他調査研究・修復・保存整理の実施等

(2) 資料に関する情報提供、教育普及活動等

収蔵資料に関して、報道関係者、他の博物館・美術館、ドラマ・映画制作会社、研究者等からの資料の撮影や閲覧、取材等に対応したほか、通信文化資料の有効活用のために、他の博物館・美術館・資料館に収蔵資料の貸出及び画像データ提供を行った。

また、教育・普及活動の一端として、博物館学芸員課程受講者を対象に博物館実習を行ったほか、日本郵政グループの社員研修等にも協力し、講義や見学研修などを行った。

No.	項目	件数
A	特別閲覧	41件
B	撮影・データ提供・掲載・放映	240件
C	貸出・貸出キット	49件
D	取材・照会回答	278件

(3) 近隣文化施設との連携

「すみだ北斎美術館」や東京スカイツリータウン・ソラマチとの連携等により、地域振興・活性化施策の推進を図った。

3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流をはじめとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした通信事業の創始者である前島密の功績

を記念し、文字コミュニケーション・情報通信・放送分野でその精神を伝承・発展せしめるために、昭和30年度に創設された。また、令和2年度（第66回）から、現在活躍し今後もなお一層の功績が期待される者を対象とした奨励賞を創設した。

以来、令和4年度までに同分野において顕著な功績のあった方々に対して、前島密賞は1, 179名・18団体、奨励賞は13名に贈呈して、その功績を称え顕彰するとともに文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

令和5年度の前島密賞（第69回）については、例年同様に各推薦機関（総務省、日本郵政㈱、日本電信電話㈱、日本放送協会、電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟）からの推薦と当協会からの推薦により実施した。

令和5年7月7日に募集要綱をホームページで公表するとともに、同年9月30日を締切日として推薦を依頼し、2回の選考委員会及び理事会決議を経て、前島密賞は31名（個人10名、共同研究21名）、奨励賞は個人4名の受賞者を決定し、令和6年4月11日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。受賞者の氏名、功績概要等は、各報道機関に通知したほか、当協会のホームページで公表するとともに会報「通信文化」に掲載した。

4 通信文化の普及・発展事業

(1) 会報「通信文化」の発行

記事内容は、読者の約6割を占める郵政グループ現役社員に役立つものとするため、郵便局等での様々な社員の活躍や郵便局での取り組みなどを紹介した。また、郵政グループの経営関連の記事を増強したほか、マネジメントに関する記事も多く掲載した。

健康問題は、読者の関心が極めて高いことから、医師の鎌田寛氏の執筆する「人生100年時代をどう生きるか」を引き続き掲載し、読者からは好評を得ている。また、読者への還元として、当選者に各地の名産品等が当たる「読者プレゼント」を引き続き実施した。

特集記事コーナーでは、著名人による講演会の内容を「岡野裕基金記念講演会」記事として紹介するほか、自然災害や2025年問題等の時事問題にも触れ、毎回読者アンケートで好評を得ている。

なお、こうした会報編集に加えて、会報に掲載する広告の募集にも力を入れ、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。

年間12回 746,400部発行（月平均62,200部）

（敬称略）

発行月	特 集 記 事	執筆者又は話し手
5年 4月	岡野裕基金記念講演会 「心つかむ人材育成術」	2004年アテネ五輪サッカー日本代表監督 山本昌邦
5月	執筆 「テレビ放送70周年 歴史と今日の課題」	東海大学文化社会学部教授 樋口喜昭

6月	第68回前島密賞受賞記念インタビュー 「インターネットに乗って広がるradikoの世界」 執筆 「メディアが伝えない震災のほんとうの教訓は」	関西大学社会学部教授 三浦 文夫 (株)radiko 最高技術顧問 香取 啓志 江戸川大学メディアコミュニケーション学部特任教授 隈 本 邦 彦
7月	第68回前島密賞奨励賞受賞者記念インタビュー 「郵便外務及び内務役職者として、営業・社員育成を率先垂範」	安芸郵便局(高知県) 大倉 基宏 聞き手 通信文化協会編集長 滝澤 一夫
8月	執筆 「2025年問題」	白鷗大学名誉教授 福 岡 政 行
9月	執筆 「数字のセンスを磨く」	公認会計士・作家・YouTuber 山 田 真 哉
10月	岡野裕基金記念講演会 「貯蓄から資産形成へ」	人財アジア 代表取締役社長 岡 村 進
11月	インタビュー 「日本郵便株式会社の将来像に向けたプロジェクト」	日本郵便株式会社社長 千田 哲也 聞き手・通信文化協会参与 壺井 俊博
12月	インタビュー 「かんぽの事業再生と成長戦略策定への取組」 執筆 「発酵食品の免疫力」	株式会社かんぽ生命保険社長 谷垣 邦夫 聞き手・通信文化協会参与 斎尾 親徳 発酵学者 小 泉 武 夫
6年 1月	岡野裕基金記念講演会 「すべての経験に無駄はない①」	日本郵政株式会社 日本郵政グループ女子 陸上部監督 高 橋 昌 彦
2月	岡野裕基金記念講演会 「すべての経験に無駄はない②」	日本郵政株式会社 日本郵政グループ女子 陸上部監督 高 橋 昌 彦
3月	岡野裕基金記念講演会 「イクボスで、成果と笑顔が共にアップ」	NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事 川 島 高 之

(2) 文化講演会の開催等

当協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、全国各地において、「文化講演会」を10回、総数2,675人の参加(Web参加1,180人を含む)を得て開催するとともに、手紙教室を102回、総数5,607人の参加を得て開催し、文化活動を行った。

文化講演会等開催状況

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加者数
信越	R5.8.24	「郵便の父前島」一商売と笑売の秘訣一	三遊亭白鳥氏 落語家	ホテル国際21 (長野市)	190人

九州	R5. 9. 25	「イクボスで、成果と笑顔が共にアップ」～誰もが活躍できる職場、活躍させる上司～	川島 高之氏 NPO法人コナカ・ニッポン代表)	日本郵便(株)九州支社 (熊本市)	203 人
東北	R5. 10. 26	「東日本大震災の教訓を繋いでいく」～巨大災害時代を生き抜くために～	今村 文彦氏 東北大学災害科学国際研究所教授	日本郵政グループ 仙台ビル 「講堂」 (仙台市)	355 人
北海道	R5. 11. 29	郵便局の「存在意義、地域からの期待値」及び「将来展望」	軒名 彰 氏 日本郵便(株)社外取締役	日本郵便(株)北海道支社ビル講堂 (札幌市)	1300 人 (Web1180 人)
東北	R6. 1. 20	「コミュニケーションを考える」～言葉の力、生きる力	渡辺 祥子 氏 アカウンタ・情報誌「りらく」編集長	A E R (アエル) (仙台市)	150 人
信越	R6. 2. 13	「挑戦は明日への力」	大谷桃子 かんぽ生命社員 車いすテニス選手	ホテルメトロポリタン長野 (長野市)	130 人
四国	R6. 2. 20	マーケティング(対外戦略)とマネジメント(対内戦略)の原理原則	田尾 和俊氏 四国学院大学 社会学部教授	日本郵便(株)四国支社・講堂 (松山市)	80 人
東京	R6. 2. 22	ワクワク郵便局づくりセミナー(GS・ESセミナー) 笑い文字講座	廣江 まさみ氏 (一社)笑い文字普及協会代表理事	新宿郵便局 9 階大会議室	102 人
東海	R6. 3. 2～ R6. 3. 3	生涯生活設計年金セミナー 「聞いてナットク!!あなたの年金」	安江 美和子 氏 社会保険労務士・年金コンサルタント	日本郵便(株)東海支社講堂、静岡中央郵便局会議室	165 人

(3) 青少年ペンフレンドクラブ(PFC)への活動支援

ア 地域交流会活動支援

例年、手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、日本郵便(株)各支社において開催される「PFC会員交流会」の講師の手配、会場の確保、ノベルティグッズの提供などの支援を行っている。

イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク(会員会報誌 毎月1回発行)」は、PFC会員メリットの重要ツールとなっている。読者に「通信文化協会」のPRも兼ねて、抽選により毎回20名へ賞品(レターセット等)と会報「通信文化」を贈呈した。

(4) 社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を実施している。

5 土地・建物賃貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き賃貸しているほか、文京区湯島にある新湯島ビルの2・3階各室を賃貸マンションとし、その入居管理・ビル管理等を委託して、円滑な運営と安定した賃貸収入を確保するとともに、計画どおりの借入金返済を行った。

6 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

(1) 叙勲祝賀会の開催

勲章を受章した本部及び関東・東京・南関東地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で、春と秋に祝賀会を開催した。また、北海道及び中国地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

(2) 新年賀詞交歓会の開催

東京都内と関東・南関東地域在住の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で1月15日(月)、KKRホテル東京において4年ぶりに開催した。また、東北、東海及び中国地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

(3) 記念品等の贈呈

- ア 会員へのサービスとして、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員1,552人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。
- イ 米寿を迎えた個人会員502人に「米寿記念品」を贈呈した。
- ウ 協会手帳を配付した(希望者のみ)。

(4) 団体傷害保険等の取扱い

通信文化協会会員及び郵政グループ社員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、次のとおりである。

【令和5年度における契約状況】

区 別	口・件数	保 険 料
団 体 保 険	77千口	580百万円
団 体 扱 保 険	5千件	253百万円

7 会員増加対策

令和5年度の会員増加対策については、新規入会の個人会員会費の1,000円割引キャンペーンの継続や定年退職者等のシニア会員への継続確保施策に取り組み、事業運営の基盤である会員の獲得に努めることとし、純増目標として、個人会員・法人会員(口数)を合わせた450人・口を設定した。

地方本部における勧奨活動体制としての運営委員会の開催や地域に密着した参与の積極的な勧奨活動体制の強化や会員サービスとしての会報掲載内容の充実を図るとともに、身近な「地方本部だより」の発行、会費の税制優遇の周知などにより、新規加入会員は2,172人となったものの、年度末の個人会員数・法人会員(口数)に対しては、会費改定の影響による退会者を含め、1,083人・口(対目標▲240.7%)の純減となった。

会員の現況は次のとおりである。

区 別	令和5年度末	令和4年度末	増・減
個人会員(人)	61,227	62,328	1,101人減
法人会員(口)	903	885	18口増

(個人会員地方本部等内訳)

区 別	令和5年度末(人)	区 別	令和5年度末(人)
北海道	5,592	近畿	8,482
東北	5,994	中国	4,421
関東	5,501	四国	3,253
東京	4,531	九州	6,715
南関東	2,162	沖縄	518
信越	4,088	本部	557
北陸	2,307		
東海	7,105	合計	61,227

(参考)

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附(支援)をお願いしており、令和5年度は1,466人の会員から総額2,208,000円の寄附収入があった。

8 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

代表理事の職務執行状況の報告は、第36回及び第37回理事会において行った。

(1) 理事会

○ 第36回理事会(令和5年5月26日)

- <議案> 1 令和4年度事業報告
- 2 令和4年度決算報告
- 3 令和5年度収支予算書の補正
- 4 特別寄附金の受入れ
- 5 定時評議員会の開催
- <報告> 1 前島密賞選考委員の委嘱
- 2 職務の執行状況 R05.02~R05.04

○ 第37回 理事会（令和6年2月15日）

- <議案> 1 第69回前島密賞の授賞者決定
- 2 令和6年度事業計画
- 3 令和6年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
- 4 特定寄附金の受入れ
- 5 定時評議員会の開催
- <報告> 1 経理規程の改正
- 2 内閣府立入検査
- 3 職務の執行状況 R05.05~R06.01

(2) 評議員会

○ 第23回 評議員会（令和5年6月16日）

- <議案> 1 議長の選出
- 2 議事録署名人の選出
- 3 令和4年度決算報告書
- 4 令和5年度収支予算書の補正
- 5 理事の選任
- <報告> 1 令和4年度事業報告書
- 2 特別寄附金の受入

○ 第24回 評議員会（令和6年3月11日）

- <議案> 1 議長の選出
- 2 議事録署名人の選出
- 3 令和6年度事業計画
- 4 令和6年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
- <報告> 1 第69回前島密賞の贈呈
- 2 経理規程の改正
- 3 内閣府立入検査

9 業務等の見直し

協会の存立基盤である会員の確保・会費収入の確保は協会財務に連動する極めて重要な業務であるため、より一層、地方本部における執行体制の強化を図れる本部長等人材の活用・登用を推進している。また、本部・地方本部の協会内ネットワークを構築し IT を積極的に活用している。

令和5年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和6年5月

公益財団法人 通信文化協会